

発達神経科学シンポジウム

「脳幹・中脳及び間脳と行動」プログラム

(瀬川小児神経学クリニック, 厚生省研究班会議合同シンポジウム)

昭和59年11月3日(土), 4日(日)

於: 順天堂大学新館5階会議室

11月3日(土)

開会の挨拶 瀬川 昌也

I. セロトニンニューロンと行動

1. 二日酔ラットの縫線核破壊の行動リズム・性行動への影響

林 續二・佐々木 由紀子(東京都神経科学総合研究所)

○高橋 清久(滋賀医科大学精神科)

2. ラット中脳縫線核ニューロンの形態と脳内軸索投射について

今井 寿正(順天堂大学脳神経内科)

3. 人胎児脳幹におけるセロトニン・ニューロンの分布—免疫組織学的研究—

高橋 均(新潟大学脳研)

4. 中枢内セロトニンニューロンの初期発達

前田 敏博(滋賀医科大学第一解剖)

II. 特別講演

5. Biological rhythms and sleep behavior

A. Borbély (チューリッヒ大学)

III. ドーパミンニューロンと行動

6. 脳内ドーパミンの変化と行動

○融 道男・渡部 修三・西川 徹・小渡 敬

(国立武蔵療養所神経センター)

7. メタンフェタミン胎生期投与による行動奇形と脳内生化学的变化

佐藤 光源(岡山大学精神神経科)

8. ラット行動リズムと脳内カテコールアミン系

本間 研一(北海道大学第一生理)

IV. 扁桃核, 脳基底核と行動

9. 扁桃核キンドリングと辺縁系内神経回路の可塑性

○宇野 正威(都立松沢病院)

小沢 信幸(東京都精神医学総合研究所)

10. 注意と記憶に関連するサル大脳基底核のニューロン活動

彦坂 興秀(東邦大学第一生理)

11. Polysomnography による大脳基底核病態判定の可能性

瀬川 昌也(瀬川小児神経学クリニック)

V. ペプチドと行動—その1

12. 神経系の性差の研究—神経組織の脳内移植片に対する性ホルモンの影響—

新井 康允(順天堂大学第二解剖)

13. 特別講演

神経ペプチドと行動

井上 昌次郎(東京医科歯科大学医器材研)

11月14日（日）

Ⅵ. 自閉症の病態生理

14. 自閉症児の遠隔電場電位

橋本俊顕（徳島大学小児科）

15. 自閉症児におけるトリプトファン・セロトニン代謝障害

○金子元久・星野仁彦（福島県立医科大学精神科）

Ⅶ. 脳幹障害と行動

16. 年齢依存性てんかんの睡眠

岩川善英（東京医科歯科大学小児科）

17. 年齢依存性てんかんの脳幹病理

佐藤順一（東京都神経科学総合研究所）

18. 脳幹部にみられる筋緊張の増強機構

森茂美（旭川医科大学第二生理）

Ⅷ. 特別講演

19. 逆説睡眠の解剖と生理

酒井一弥（仏・クロード・ベルナール大学）

Ⅸ. ペプチドと行動—その 2

20. エストロゲンの性行動賦活作用に対するオピオイド神経系・アミン神経系の修飾作用

久保勝知（熊本大学遺伝研）

X. 神経伝達物質障害の行動異常

21. Rett 症候群の睡眠機構の研究—病態判定上の意義—

野村芳子（瀬川小児神経学クリニック）

22. 妊娠中の降圧剤（Methyldopa）服用が子の睡眠に及ぼす影響

下平雅之（東京医科歯科大学小児科）

23. 特別講演

The role of the central neurotransmitter system in development

M. Mirmiran（オランダ・脳研究施設）

閉会の挨拶 瀬川昌也